詩

奨励賞

春は隣の小松沖

令和四年一月三十一日

土居原町　神田　博行

春は隣の夕間暮れ
いつもの如き音残し
俄に消えしＦ１５
機体や何処小松沖

行き方知れぬ輩(ともがら)よ
待つ人のもと早くもと
双眼鏡の手も凍る
重波頻(しきなみしき)く頻く日本海

茫茫荒るる海底(うなぞこ)に
見付けたりとふ報道は

建国記念の日となりて
空の防人二人絶ゆ

防人悼む献花所は
行けど行けども日は暮るる
名も切なかる日末の地
二月尽く日も花二つ

季節は行きつ戻りつに
緊迫度を越す北の空
スクランブル機帰るとも
防人二人帰らざり

暫(しば)静寂の滑走路
慟哭響く格納庫
平和を守る遺志継げば
二人の御魂安らけく

春の光りのうらうらに
空泰然と見る白山
桜の国を衛らむと
再び発つはＦ１５

宵闇迫る花冷えに

誇りも高き小松基地
さても飛び発つＦ１５
無事にこそあれ幸(さき)くあれ